



福沢一郎 『上毛野国』 昭和 57 年  
壁画・油彩・カンバス (310cm × 1,170cm)

未来への贈りもの  
本市収蔵作品

市民文化会館1階西側の壁面に広がる古代ローマの世界。この大きな壁画は、福沢一郎さん(明治31年―平成4年)の作品です。東国文化の中心として栄えた上毛野国5・6世紀頃の姿を思い浮かべ、武装した男たちが馬を走らせる様子を画面いっぱい力強く、そして右下に女性や子どもたちが太鼓をたたいて歌や踊りを楽しむ様子を描いたといわれています。

富岡町(現・富岡市)の旧家に長男として生まれた福沢さん。東京帝国大(現・東京大)在学中は彫刻を学びました。大学中退後、渡欧して絵画に転向すると、シュルレアリスムの影響を受け帰国。戦前の日本に新風を吹き込みました。戦後は、風刺や批評を盛り込んだ作品のほか、歴史や神話、宗教などからヒントを得た作品でさまざまな表現を展開。昭和53年に文化功労者、平成3年には文化勲章を受章しました。

この壁画を制作した当時、福沢さんは84歳。晩年も「魏志倭人伝」や「騎馬民族征服王朝説」など、歴史的テーマの大作に精力的に取り組み、年齢を感じさせない活動を続けました。

問い合わせは 文化国際課 18008-15805

7月1日に行われた市消防団消防ポンプ操法大会に、女性消防団員として初めて挑戦。予選を見事突破し、本戦でも20チーム中5位という好成績を収めた。

「優勝できなかったのですが、とても悔しいです。次の大会ではぜひ、リベンジしたいですね」

消防車からホースを延ばして放水し、約60メートルを倒すまでの時間や動作の確実性などを競う大会。5人チームの中で、ホースを握って先頭に立った。

「二つ一つの動作にメリハリを付けるよう心掛けました。チーム一丸となって真剣に練習してきたので、みんなの期待に応えたいと思っていました」

ことし4月に彼女を含め、女性5人が市消防団に初めて入団した。

自分たちのまちを守りたい



初の女性消防団員として消防ポンプ操法大会に出場

栗林 美佳さん 28歳  
上小出町三丁目

「東日本大震災を機に、地域に密着した活動がしたい」と思っていたところ、広報に募集記事が出ていたので応募してみたいです」

現在は会社員として働きながら、岩神町・昭和町・国領町などを担当する第2分団1部に所属。災害時の出動や、火災予防などの広報活動が主な任務だ。

「消防団には女性の持ち味を生かせる仕事があります。女性が増えることで団の活動の幅も広がるので、もっと多くの人に参加してほしいです」

今後の目標は、いろいろな経験を積むことで有事のときに正確な対応ができるようになること。これからもその持ち前の明るさと、努力で培った技を發揮してまちの安全を守り続けてほしい。



日頃の応援に感謝を込めて

8月5日、正田醤油スタジアム群馬でザスパ草津がサンクス前橋デーを開催。赤城の恵ブランド認証品である大島梨の配布や、TONTONのまち加盟店が出店するなど会場は大にぎわい。試合は惜しくも敗戦しましたが、選手たちには温かい拍手が送られました。



詩と社会のつながりを語る

7月28日、前橋文学館でアートステージ「言葉と世界」を開催しました。第19回萩原朔太郎賞受賞者・福間健二さんと現代詩作家・荒川洋治さんが対談。年齢が近い2人のテンポよいトークで、笑いも交えながらの楽しいステージとなりました。

4地区で楽しい夏祭り多彩に  
7月28日から8月5日までの土日曜に、大胡・宮城・粕川・富士見の各地区で夏祭りが盛大に開催されました。どの会場も家族連れなどで大にぎわい。暑さも忘れて、楽しい夏の思い出づくりができました。

